



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012 年度 RI テーマ

RI 会長 カルヤン・パネルジー

地区ガバナー 大澤 徳平



海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第 1693 回例会

平成 24 年 2 月 27 日(月)

12:30～ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング

「手にてつないで」

3. 出席報告

会員総数 59 名 出席者数 38 名

出席率 64.41% 前回修正出席率 72.88%

4. 会長スピーチ

会長 田村 健治 君

今日は 2 月最後の例会です。月間テーマの“世界理解”にちなんだ話を紹介します。

国際ロータリーの重要テーマの一つに人口問題があります。世界全体では増加傾向とそれに続く食糧問題。もう一つは先進国での減少傾向、即ち少子化問題です。

関東地方の人口は約 4000 万人です。それに匹敵する人口が 2060 年には減少します。先日、厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所は、そんな日本の将来推計人口は 2060 年には現在の 3 分の 2 の 8600 万人になると公表しました。

過去 5 年間の出生率は 30 代の出産増もあり、若干回復しました。ですが、人口の多い団塊ジュニア世代が出産適齢期を過ぎれば、出産可能な女性の数は急速に減少します。25～39 歳の女性数は現在 1200 万人ですが、20 年後には 900 万人を割り込むそうです。それで出生率が少し上がっても、出産数は多くなり、人口減少は急激に進むようになります。しかも少子高齢化で総人口に占める高齢者の割合は一貫して増え続け、60 年には 4 割に達します。こういう超高齢社会を日本人は経験したことがありません。「その時には 100% 生きていないから関係ない、興味ない」と言ってしまう人もふたつありません。

なぜ、こうした社会が出現したのでしょうか。最大の原因は高齢化というよりも超少子化にあります。社会

学者による見解はこうです。20 世紀半ばに先進国は「第一の人口転換」と呼ばれる子供を少なく生んで大事に育てる社会を迎えましたが、そこでは家族や配偶者、子孫をより大切なものという考え方はまだ高いものでした。ところがその後、先進国は「第二の人口転換」と呼ばれる超少産社会に入りました。そこでは異性との同居、結婚・離婚、出産に関する行動が伝統的な規範・道徳に拘束されなくなり、個人の権利と自己実現が最も重要な価値観として強調されました。それによって伝統的な結婚観が崩れ、未婚者が増え、出生率が急激に落ちました。それが超少子社会の出現した原因だということです。

政府は 1994 年の「エンゼルプラン」以降、04 年の「少子化社会対策大綱」、民主党政権の「子ども手当」等々、数々の少子化対策を行ってきましたが、それによっていい方向に進んだとは言いがたいものがあると思います。これらはいずれも女性(母親)の働きやすい環境をつくるか、女性が働きに出やすいように保育所をつくるかといった労働政策や経済支援策に終始し、結婚の意義や子供を持つ喜びなどを黙殺するものでした。こうした反省の上に立てば、単なる労働・経済政策では超人口減少社会の克服が困難なのは明らかです。いま必要なのは戦後社会の価値観を転換し「家族の価値」を取り戻すことであると思います。そして、それは日本と言う大家族の価値を取り戻す事にも繋がるのではないのでしょうか。この考え方は非常に説得力があると思いました。

5. 幹事報告

幹事 山畑 弥生 君

○メイクアップ

中村 雅行君 2 月 23 日 和歌山東 RC

○例会臨時変更のお知らせ

和歌山南 RC 3 月 9 日(金)→3 月 9 日(金)

18:30～ アバローム紀の国

(和歌山東南 RC との合同例会)

○休会のお知らせ

橋本紀の川 RC 3 月 20 日(火)

○3 月のロータリーレート

1 \$ = 78 円

2 月は世界理解月間です

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
- ②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長: 田村 健治 幹事: 山畑 弥生 SAA: 岩井 克次

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail: info@kainaneast-rc.jp

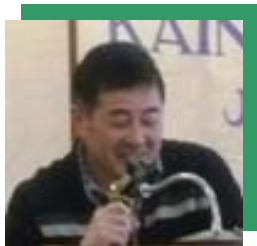
6. 会員卓話

○中村 俊之 君

私と私の会社について、お話しします。私は昭和 41 年 9 月 7 日の“ひのえうま”に生まれました。

私の業種は海南漆器です。事業は 1900 年（明治 33 年）の創業で、112 年になります。会社の設立 1947 年（昭和 22 年）65 年になります。私は大学を卒業してから、就職し、会社に勤めましたが、家業の会社が丁度パソコンができる人がいないため、海南に帰って、父親の後を継ぎました。そして、J C に入り、多くの友人もでき、その後、ロータリーに入会させていただきました。

話は変わりますが、面白い資料を見つけたので、正義の味方と悪の組織の違いについて話したいと思います。



正義の味方と悪の組織の違いとは？

正義の味方	悪の組織
自分自身の具体的な目標が無い	大きな夢、野望を抱いている
相手の夢を阻止するのが生き甲斐	目標達成のため研究開発を怠らない
常に何かが起こってから行動	日々努力を重ね、夢に向かって手を尽くしている
受け身の姿勢	失敗してもへこたれない
単独～少人数で行動	組織で行動
いつも怒っている	よく笑う

私の使命は先祖や父から、受け継いだ会社の事業や資産を減らすことなく守っていくことだと考えています。日々、堅実に仕事をしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

○大江 久夫 君



私が海南東ロータリークラブに入会してからの事を、少し話させていただきます。

入会した時、ほとんどの会員の方のことは、知りませんでした。入会して初めの頃の例会に出席した時、何も分からず、何処へ座ればいいのかも分かりませんでした。

そんな時、会員の方が私の名前を呼び、横に座るよう薦めてくれました。例会に行くことが心細かったので、とても嬉しく思いました。半年位経った頃、仕事も忙しくなった事もあり、あまり例会にも出席出来なくなりました。

例会の欠席が続くと出席するのが億劫になり、もう退会しようかなとも思いました。何週間かして出席すると、欠席続きだったにもかかわらず、先輩会員の方々の方から、普通のように話しかけてくれました。その会話が楽しくて退会を留まることが出来ました。

それから何年か経ちまして、今年度、出席委員長をさせてもらっています。

先輩会員の方々から、新入会員に話しかけ、会話をしていただく事は、新入会員の退会防止になり、出席率向上に繋がると思います。

また、新年夫婦例会や家族会などに積極的に家族と共に出席してもらい、会員同士の親睦を深め、例会に来ることが、楽しみになって頂ければいいと思っています。出席委員からの報告のようになりましたが、例会出席を、よろしくお願い致します。

○大谷 徹 君

海南の雑貨産業についてお話しします。海南市は、和歌山県の北西部に位置し、市の南北に、国道 42 号と JR 紀勢線により紀南と京阪神を結ぶ要衝の地として発展、特に、近年は阪和自動車道の開通をはじめ、紀勢線の電化、海南港の整備等によって益々その役割は高まっています。海南地方のあけぼのは、縄文時代に始まると言われ、2000 年くらい前から弥生式文化が開けて稲作が行われるようになり、また、地方族も海南地方周辺で発生したことが各地に点在する古墳によって伺われる。日本書紀などの文献に出てくる海南は藤白坂の事であるが、斉明天皇の時代に孝徳天皇の皇子、有馬の皇子が謀反の疑いをかけられた当時、牟婁温泉（白浜温泉）に静養中であった天皇のもとに送られ取調べの帰路、藤白坂で殺されたというのが、その最初であり、その頃から万葉集に、海南地方の地名が現れています。すなわち万葉集に出てくる海南の歌枕の中に、黒牛の海、名高の浦、藤白三坂などといった地名が使われていることから、万葉集を通して全国的にその名が知られるようになりました。これは、その後の文学にも数多くその名が出てきています。また、平安初期に記されている日本霊異記にも海南地方の地名が出てくるほか、平安中期から鎌倉時代へかけて皇室や公卿、あるいは武家、町人、などが熊野信仰で、九十九王子が道を往復するようになって、海南地方はさらに広く一般に知られるようになったわけです。

徳川時代に入ってから海南は商工業の町として発展をし、紀伊風土記の中にも（和歌山は天正以後、都会となったが、今の海南は商売多くして町家と変わらない）とあり、さらに紀伊名所図会にも（黒江浦は今は専ら渋茶碗をこしらえる業とし、西国、関東の遠方まで商う。海陸便がよく工、商、軒をつらねて繁盛豊かな地なり）また（日方浦は元弘元年の地震によって陸となり、いつとはなしに市店出来せしにより大船を作り北海、東海に通い万物を積み交易して、その利倍を得るもの多し）とその発展を記しています。このように古くから海南地方は、海陸の要路を生かし商工業の町として栄えてきたわけで、人口は 5 万人弱となっています。

当時からすでに黒江塗、紀州傘と呼ばれた漆器和傘は、家内工業的性格をもって海南産業の中に大きな位置を占めていたほか、野上地区における、棕櫚を使っ



た和雑貨製品など、次第に生産量は増加しつつありました。戦後になって各特産品の生産出荷額は年々発展の一途をたどり、従来の素材に変わる新素材ならびに新技術の開発による大量生産によって各業種とも飛躍的な伸びをたどるにいたり、昭和45年には43億、46年は49億、と平均的な伸び率15%~20%前後と安定した伸び率を示し現在において生産量は日本一となっています。一方昭和47年に海南商工課がまとめた和雑貨製品に関する品種別県外販売高でみると総額112億円のうち、ロープ縄13.5%、ビニール製品13.5%、タワシ類13%、ホーキ8%、マット7%、ブラシ6%となっています。もちろんこの比率は50年代にはかなり変化して、55年度には総額約150~200億で平成23年では516億となっています。他の家庭用品業種が厳しい消費需要が続くなかにあって海南特産品だけは堅実な歩みを続けているのが実情であります。海南地方における棕櫚栽培の起源は古く大同元年弘法大師が、中国で仏教を学んで帰った際、中国から棕櫚の種子を、持ち帰り高野山麓から野上川流域にかけて植樹したのが各地伝摩していったものといわれています。又、「紀伊国名所図会」によると、(有田郡清水町押出付近)「多く棕櫚を植え、春秋その皮をはぎて諸国にひさぐ、年々の利益少なからず」と記されています。この図解にあるように、清水町に生産されていた棕櫚がだんだん人々の間に竹皮の代表として用いられるようになり1847年頃には、1,452貫(1貫は4Kg)5,808Kgも産出されたといわれるところから、当時は棕櫚が群生していたものとみられる。一方、棕櫚の産地としていわれる野上谷の棕櫚栽培の起源も伝説的に伝えられており、文化年間に長峰山脈の大堂鳴海と言う所に棕櫚の木が発見され、それが広く当時の農家の手によって栽培され各地に広まったものと伝えられています。棕櫚の分布は、和歌山県下では、野上川流域と、有田川流域が主力となっており、もっとも多い地方は野上町小川、美里町下神野付近(現在は紀美野町)及び有田郡の地域です。また、日本における分布を見ると九州、四国、中国、紀伊半島、伊豆半島、に多く大体はみかんの分布と類似しています。野上の棕櫚加工の原料は土地のものと有田のものが大部分と使われており一部九州や四国方面からのものも入ってきているといわれています。

た。また、一方では棕櫚原料の不足を補うため棕櫚より安価なヤシの実の外側の繊維（パーム）が輸入されるようになり、これを製網に用いたのが中野上の尾崎氏です。戦後になって再び棕櫚〔中国〕、パーム（スリランカ）原料とともに輸入され一部加工製品も輸入されるようになりました。現在、棕櫚、パームを使った製品としてはホーキ、ブラシ、タワシをはじめマット、縄、ロープ（漁業用、荷作り包装用、垣根縄）などがあり、その中で一番、量的に多いのはタワシであり全国生産の90%以上を占めています。棕櫚製品の特徴は①強靱で丈夫なこと②耐蝕性に富んでいること③耐久性に優れ腰が強いことであり、このメリットは時が変わっても永久に変わることはないでしょう。棕櫚加工としてスタートした和雑貨産業は、150年の歴史の中で幾多の曲折を経ながら一地方の特産物の生産地から、我が国の新しい化学繊維製品の基地へと大きく脱皮し、現在小売市場で海南メーカーをはずせない存在となっています。

7. 閉会点鐘



寺下 卓君	3月2日放送予定のアツテレ和歌の取材を受けました。
大江 久夫君	少しの時間だけ、卓話をさせていただきます。



国際ロータリー ニュース

インド、ポリオ常在国リストから除外

世界保健機関 (WHO) はこの度、インドを公式にポリオ常在国のリストから除外しました。これは、2月25日にインドのニューデリーで開催された2012年ポリオサミットで、WHOのマーガレット・チャン事務局長からの発表を、インドのグラム・ナビ・アザド保健相が代弁する形で伝えられました。インドで最後にポリオの感染が報告されたのは、西ベンガル州の2歳の少女への感染で、2011年1月13日のことでした。以来、インドではポリオの感染が1件も確認されておらず、1年間ポリオ無発生を達成しました。インドが常在国のリストから除外されたことにより、現在のポリオ常在国は、アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンの3カ国となりました。インドでのポリオ撲滅が証明されるには、これから丸2年間、ポリオの無発生を維持する必要があります。同サミットに出席したインドのマンモハン・シン首相は、次のように述べています。「インドで1年間、1件もポリオ感染の報告がなかったことは大変喜ばしいことです。このことは、インドからだけでなく、この地球上からポリオを撲滅できるという希望を与え、また、撲滅にはチームワークが重要であるということを示しました」

二価経口ワクチン

インドでの成功の大きな要因は、現存する二種類のポリオウイルスの両方に効果のある二価ワクチンを幅広く利用したこと、また、徹底した監視活動を行ったことでした。WHOによると、監視活動のおかげでポリオワクチンの予防接種を受けない子どもの数を1パーセント以下に抑えることができました。

国際ロータリーは、インドにおけるポリオ撲滅活動において大きな役割をはたしてきました。これまで11万9,000人のロータリアンが子どもたちへの予防接種活動に参加してただけでなく、ポリオ認識向上のための集会を主催し、撲滅のための広報活動に尽力してきました。ロータリーは1988年以来、世界ポリオ撲滅推進計画の主要パートナーとして、WHO、ユニセフ、米国疾病対策センターと協力してきました。また、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団も、同推進計画の主要な支援団体です。



第3201地区(インドのケララ州とタミル・ナドゥ州の一部)により開催された「All India End Polio Now Road Show」の様子。この行事は、2011年末から2012年初めにかけて開催され、インド、ネパール、ブータンにおけるポリオ撲滅活動を支援しました。写真提供: 第3201地区

世界中のロータリアンによる支援

「世界中のロータリアンによる支援のおかげで、インドのロータリアンは全国予防接種日を毎年実施し、何百万人もの子供たちにワクチンを投与する活動を継続することができました。インド人として、ロータリーの達成を誇りに思うと同時に、インドだけでなく、ポリオのない世界を実現するために、今後も予防接種活動を続けていかなければなりません」と語るのは、カルヤン・バネルジーRI会長(インド、バピ・ロータリー・クラブ)です。

ロバート S. スコット、ポリオ・プラス委員長はインドでの達成を「ポリオのない世界への大きな前進」であり、どのような困難な課題があっても、必ず乗り越えられるという証明とし、インドのロータリアンの尽力を称えました。また、インドのポリオ・プラス委員長であるディーパク・カプール氏は、インド政府がポリオ撲滅活動にこれまでで12億ドルを費やしてきたことに言及し、インド政府による撲滅活動の支援が大きな役割を果たしたと述べました。



クラブと地区の役員のための出版物

「Rotary Leader (ロータリー・リーダー)」は、クラブと地区の役員が日々直面する課題や問題を克服する上で役立つ、実践的な情報やリンクを提供するオンラインのマルチメディア出版物です。



「Rotary Leader」は、「会員アクセス」を通じ、RIに正確なEメールアドレスを登録した現クラブ会長と現地区ガバナーに自動的に送信されますが、ロータリアンなら誰でも、随時、受信を申し込むことができます。クラブ会長エレクト、地区ガバナー・エレクト、クラブ幹事、各地区委員会委員長、ガバナー補佐には特に、受信が奨励されています。「Rotary Leader」の受信は無料です。

「Rotary Leader」は、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語の8カ国語で発行されるオンラインのみの出版物で、冊子版の販売は行われません。

「Rotary Leader」に関するご質問やご意見、記事についてのアイデアを、Eメール rotary.leader@rotary.org でお寄せください。

「水プロジェクトを成功へと導く5つのステップ」は、ロータリー・リーダーの最新号に掲載されています。ご覧ください。